

令和3年【第1回】 「いわて復興ウォッチャー調査」結果報告

1 目的

東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、被災地域において復興の動きを観察できる立場にある方々の協力を得て、復興感に関する調査を実施する。

2 調査の概要

(1) 調査対象

岩手県の沿岸12市町村に居住又は就労している方 153名

※原則として、毎回同じ方を対象に調査を実施

(2) 調査方法

郵送法(郵送による発送、返信用封筒による返送)

(3) 調査対象時期

令和3年1月(次回調査は令和3年7月予定)

(4) 調査項目

問1 被災者の生活の回復に対する実感(被災者の生活の回復度及び直近6ヶ月間の進捗状況)

問2 地域経済の回復に対する実感(地域経済の回復度及び直近6ヶ月間の進捗状況)

問3 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

(災害に強い安全なまちづくりの達成度及び直近6ヶ月間の進捗状況)

(5) 回収結果

有効回収率 79.7%(122名/153名) <前回 83.7%(128名/153名 令和2年7月調査)>

(6) 回答者の属性

①性別

性別	人数	割合
男性	87	71.3%
女性	35	28.7%
不明	0	0.0%

②地域別

地域	人数	割合
沿岸北部	42	34.4%
沿岸南部	80	65.6%
不明	0	0.0%

③年齢別

年齢別	人数	割合
39歳以下	6	4.9%
40歳代	24	19.7%
50歳代	51	41.8%
60歳以上	41	33.6%
不明	0	0.0%

④住宅被害の有無

被災有無別	人数	割合
被災あり	69	56.6%
被災なし	50	41.0%
不明	3	2.5%

⑤ 職業・所属等

- ・ 地域団体・郵便局関連(応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など) 46名(37.7%)
- ・ 教育・福祉施設関連(小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など) 33名(27.0%)
- ・ 産業・経済・雇用関連(漁業・農業従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者など) 43名(35.2%)

■参考■

- 「回復度」「達成度」とは、発災以降における全体の回復状況についてお尋ねしています。
- 「進捗状況」とは、直近6ヶ月の進み具合についてお尋ねしています。
- 沿岸北部とは、洋野町・久慈市・野田村・普代村・田野畑村・岩泉町の6市町村、沿岸南部とは、宮古市・山田町・大槌町・釜石市・大船渡市・陸前高田市の6市町です。

- ※ 調査結果の集計・分析にあたっては、岩手県立大学総合政策学部の協力を得て行っています。
- ※ 掲載する割合(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

3 調査結果の概要(1) 被災者の生活の回復に対する実感

○被災者の生活の回復度については、「回復した」が43.8%と、前回(43.3%)を0.5ポイント上回った。また、「回復した」「やや回復した」の合計も84.3%と、前回(83.5%)を0.8ポイント上回った。

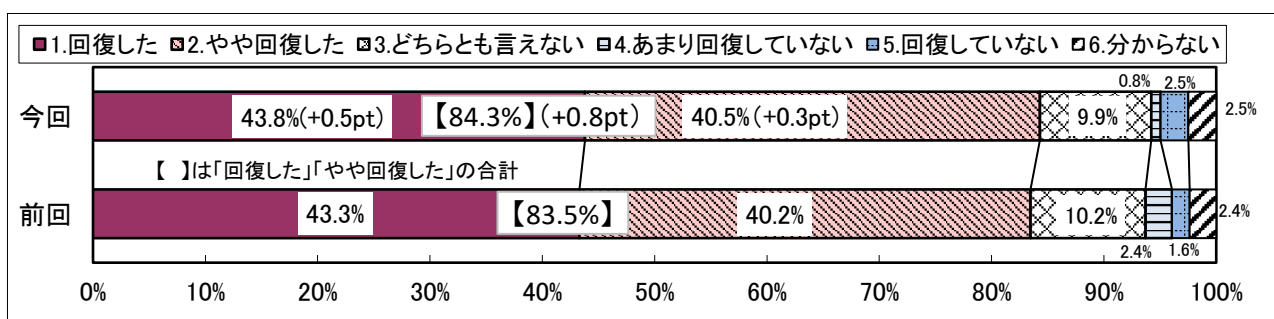
○地域別では、「回復した」が沿岸北部で50.0%と前回(44.2%)を上回ったが、沿岸南部では40.5%と前回(42.9%)を下回った。「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部で83.3%と前回(86.1%)を下回り、沿岸南部では84.8%と前回(82.2%)を上回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は1.5%と、前回(3.9%)から縮まった。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んでいる」が32.5%と、前回(35.4%)を下回り、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計も65.0%と前回(65.3%)を下回った。

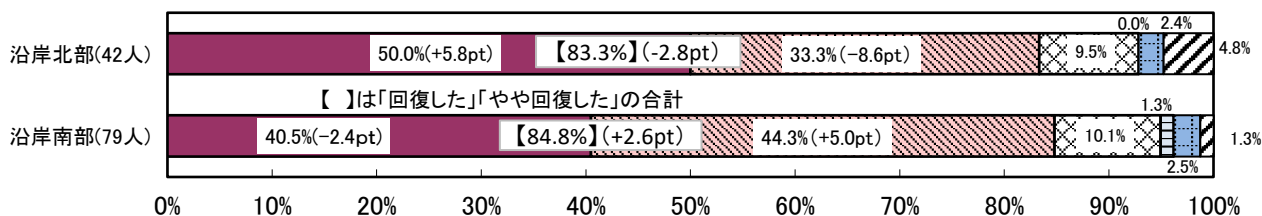
災害公営住宅への入居や自宅の再建による恒久的な住宅への移行など生活基盤の整備が進んでいるとの声がある一方で、コミュニティの形成や高齢者の生活面の支援が必要との声や、新型コロナウイルスの影響を懸念する声があった。

① 被災者の生活の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、被災者の生活は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

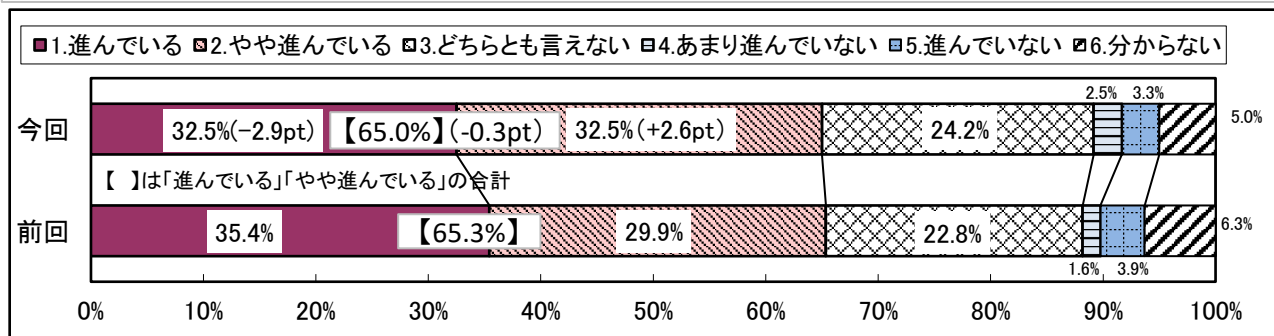


地域別

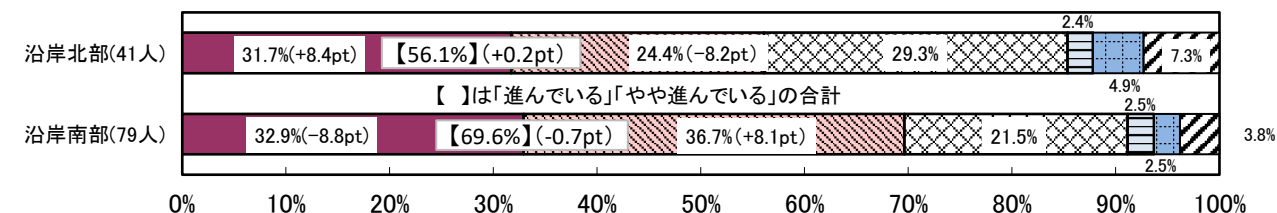


② 直近6ヶ月間(おおむね1月から7月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)被災者の生活の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.回復した」 又は 「1.進んでいる」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 応急仮設住宅は、おおむね解体され、復興住宅入居や、自宅再建が進んでいる。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部) ◆ 住環境の整備が進み、銀行の住宅ローンの取扱い件数も減少してきていることから、住宅建築を希望していた方は、だいたいその建築を終え、そうでない方は、災害公営住宅等への入居が決まり、住環境にかかる生活の回復度はかなり高まったと感じる。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部) ◆ 被災した方々も住宅を再建されており、仮設住宅に住んでいる方が、ほぼゼロになっている。(40歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部) ◆ 住宅ローン等の支払や災害住宅の家賃の支払の金銭的負担増はあると思うが、生活感は震災前と同様になってきていると感じる。(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部) ◆ 施設復旧等の目途が立ったと思う。ただ高齢者が多く若者がいないので、今後の地域づくりが大事になってくる。(60歳以上,教育・福祉施設関連,沿岸北部) ◆ 被災からの回復が完結する前に、新型コロナウイルス感染症の影響による課題が発生し、市民の生活に大きく影をおとしている。コミュニティ形成のために必要な、活発な交流活動がなされず、人と人のつながりが細くなってきている印象がある。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)
<p>「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 町中心部住宅地に再建した方、已むを得ず災害公営住宅に入居された方等、八割方落ち着いた生活を取り戻した感に見受けられる。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部) ◆ ほとんどの仮設住宅は閉じられ、住宅再建は進み、生活再建もだいぶ進んだ様に思う。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部) ◆ 仮設住宅が集約され、公営住宅や自宅を再建して新しい生活を始める人が多いと思う。住宅地の道路工事も進んでいる。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部) ◆ 東日本大震災における住居や建物の被害については、回復をしていると感じられる。また、その後の台風被害についても、災害公営住宅等が完成しており、住環境面における再建はなされてきているものと思われる。(40歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸北部) ◆ 自宅再建や復興住宅等への転居が行われ、仮設の生活からは抜け出せている。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部) ◆ 道路の整備が進み、利便性が向上している。復興住宅へ入居された方や、一人暮らしの高齢者の方への生きがいつくり、サポートに力を入れていただきたい。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸北部) ◆ 災害公営住宅の完成、高台への移転住宅建設等、間もなく震災から10年が経とうとしているが、回復していると感じる。今後はコミュニティのサポートに加え、高齢者中心に交通面のサポートも必要となってくるのではないかと。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 三陸道の整備や集団移転地への住宅再建、公営住宅入居などは完了した。ハード面の整備は終了したが、住宅再建した世帯は住宅ローンの返済、公営住宅入居者は家賃の支払いなど経済的には、以前より苦しい世帯が多い。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸北部) ◆ 生活は、だいぶ落ち着いて一見通常どおりのように見え、新たな進展はないと思われる。今は、コロナの影響の方が大きく、新たな課題で生活は困っている。また、家族で亡くなった人がいる方々は、どうしてももとの生活には戻れない、と思うから、心の面では、完全な回復はないと考えている、などの理由である。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部) ◆ 市のハード面は整備されているが、長い時間の中で、人口の流出や地域コミュニティの変化は否めない。さらに新型コロナウイルスの影響による経済活動の停滞で、今まで少しずつ積み重ねてきたソフト面(地域による活動も含め)が、非常に危うい状況になってきていると考える。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)
<p>「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 住宅等は既に戸建て、公営住宅などが完成し回復したが、少子高齢化による過疎化が進んでいる。生活面では、被災者の高齢化に伴い、以前のように就業出来る人が減少している。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)
<p>「5.回復していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 魚介類がほとんど捕れず、収入が得られない。 ・復興需要がなくなって、新型コロナウイルスに襲われたために仕事が大きく減っている。 ・外に出ることが少なくなったので、自然と引きこもるようになった。 (50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率におおむね準じています。

注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連： 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など
 教育・福祉施設関連： 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など
 産業・経済・雇用関連： 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

3 調査結果の概要(2) 地域経済の回復に対する実感

○地域経済の回復度については、「回復した」が15.7%と、前回(16.4%)を0.7ポイント下回った。また、「回復した」「やや回復した」の合計は56.2%と、前回(55.5%)を0.7ポイント上回った。

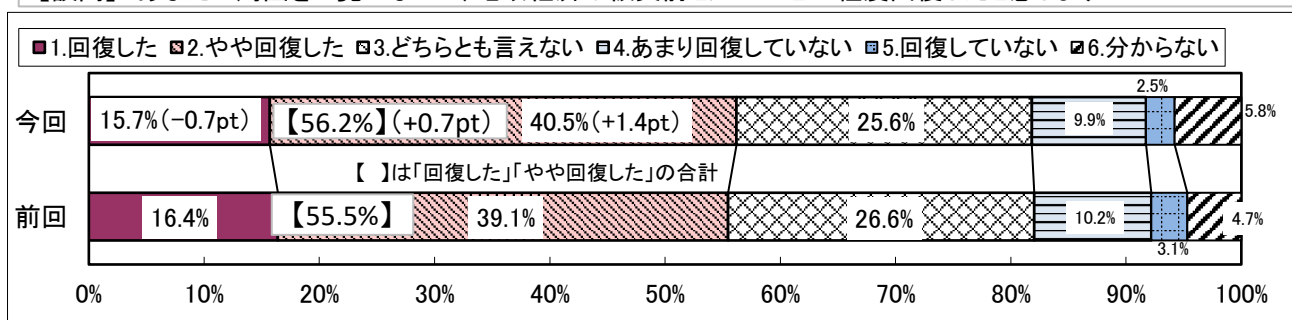
○地域別では、「回復した」が、沿岸北部で16.7%と前回(16.3%)を上回り、沿岸南部は15.2%と前回(16.5%)を下回った。「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部で59.6%と、前回(62.8%)を下回り、沿岸南部では54.4%と、前回(51.8%)を上回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は5.2%と、前回(11%)から縮まった。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んだ」が13.2%と、前回(13.6%)を0.4ポイント下回り、「進んだ」「やや進んだ」の合計は38.0%と、前回(34.4%)を3.6ポイント上回った。

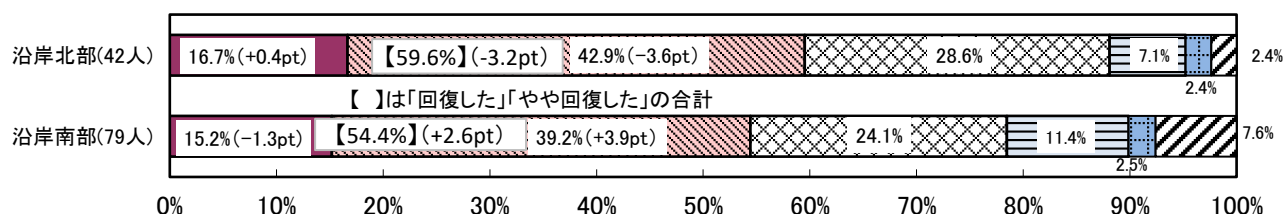
生産体制や基盤の整備、大型商業施設での堅調な営業状況などを評価する声がある一方で、水産業の不漁に加え、新型コロナウイルス感染症による観光業や飲食業など地域経済全体への影響に関する不安の声も多かった。

① 地域経済の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、地域経済は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

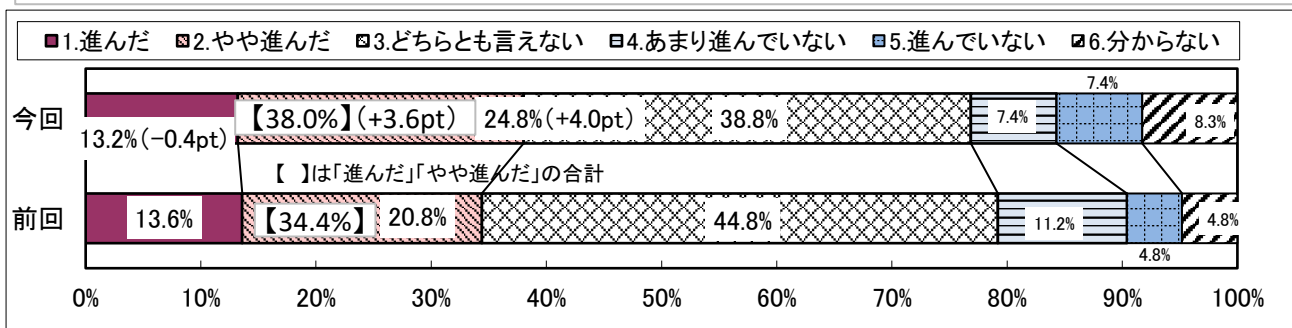


地域別

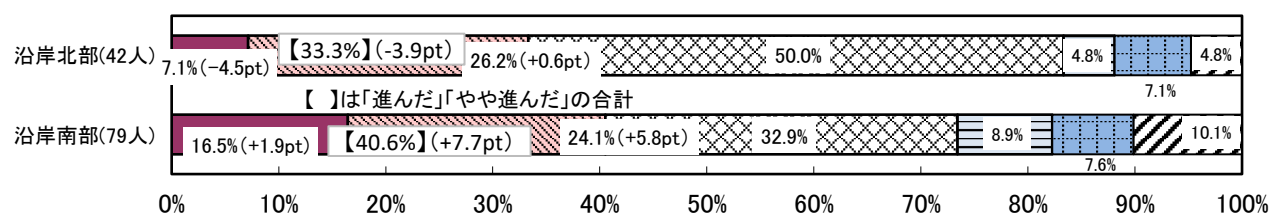


② 直近6ヶ月間(おおむね1月から7月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)地域経済の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
「1.回復した」 又は 「1.進んだ」 の理由	<p>◆水産商工業施設の復旧復興工事が進み、復旧復興がなされているように思われる。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆震災が原因での地域経済の低迷からは確実に脱却したと思う。しかしながら、その他の要因により(コロナ等)、経済は低迷している。(40歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p>
「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んだ」 の理由	<p>◆エール券などにより、少しは回復している感じはする。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆復興道路は整備され、回復を感じとれる。市街地での大型ショッピング店には人の出入りを感じる。(39歳以下,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆三陸道の開通で、利便性が大きく良くなったと思う。(40歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆・市内で花火大会等のイベントが開催されるなど、集客できるようになってきている。それによる経済効果もあると思った。 ・県立野外活動センターも完成したようで、市内へ来る観光客も、増えるのではないかという期待がある。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p> <p>◆生産体制や基盤の整備、金融面での支援は達成レベルにある。ただ、毎年の不漁により、従来のビジネスモデルは崩れており、長期安定して生産を継続するために、新たな施策が必要。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆基幹産業である漁業の極端な不漁が続いており、漁業者は苦境に立たされているようだ。コロナ禍の影響で売上減は漁価の低迷など震災とは別な状況があり、コロナの一日でも早い収束を願うばかりである。(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p>
「3.どちらとも言えない」 の理由	<p>◆アバッセ周辺に会社が建つのが続いているのは、経済が回復した一つの明かしだと思う。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆東日本大震災において被災した沿岸の水産関連業種についてはハード面の回復はなされてきていると感じられる。しかしながら地域経済については、台風からの復興工事が進む一方で、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、観光業や観光業に対する売上が大きい業種を中心に落ち込みを見せるなど、懸念される状況が続くものとなっている。(40歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p> <p>◆復興工事の終了とコロナが重なり地域経済にあまり元気を感じられない。これからは外部に望みをたくすより、地域で地域の人達が経済をまわさなければならない状況なのだろうか。ネットでの活動もはじまっているようなので、期待したい。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆サンマやサケの漁獲量が減っていて、漁業関係者の方は大変だと思う。また、新型コロナウイルスの影響で、飲食業や宿泊業も大打撃を受けている。地域を応援したくてもできない状況が残念でならない。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)</p> <p>◆農林水産業の内、漁業に関する事は、海水面の温度が上昇傾向にあつて、特にも魚類関係が水揚げ減少により、各方面(冷蔵庫関係)とか、魚類を生業としている関係に大きな影響が出ている。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆水産関係はサケ、サンマの不漁がつづいている。温暖化のためと思う。今後も期待できず、転換期であると思う。沿岸での魚の養殖等を考えなければならないと思う。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆住宅再建も終り、建設業の仕事が一気に少なくなり、この先心配である。また、コロナの影響で落ち着いて生活が出来なく、経済も不安である。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆コロナの影響で、他地域からの往来が消極的となり、観光やそれに付随した経済にダメージが大きいと思う。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p>
「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由	<p>◆農業・漁業では、農地の災害復旧、漁船、漁港等の災害復旧は完了している。しかし、二度の台風被害や漁業の不漁が続く、あまり回復しているとは感じられない。また、新型コロナウイルスの影響による観光宿泊面での影響も大きい。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)</p> <p>◆主要産業である水産業において、サンマの不漁をはじめ、多くの魚種の不漁が顕著である。また、コロナ禍の影響も加わり、販路が縮小している。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p>
「5.回復していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由	<p>◆不漁、不作、新型コロナウイルスの影響などが続き、せっかく少し増えてきた漁業後継者たちが諦めて仕事を変えてしまわないか心配である。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p>

注1)「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2)「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率におおむね準じています。

注3)掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など
 教育・福祉施設関連 : 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など
 産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

3 調査結果の概要(3) 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

○安全なまちづくりの達成度については、「達成した」「やや達成した」の合計が71.1%と、前回(70.1%)を1.0ポイント上回った。また、「あまり達成していない」「達成していない」の合計は9.1%と前回(7.1%)を上回った。

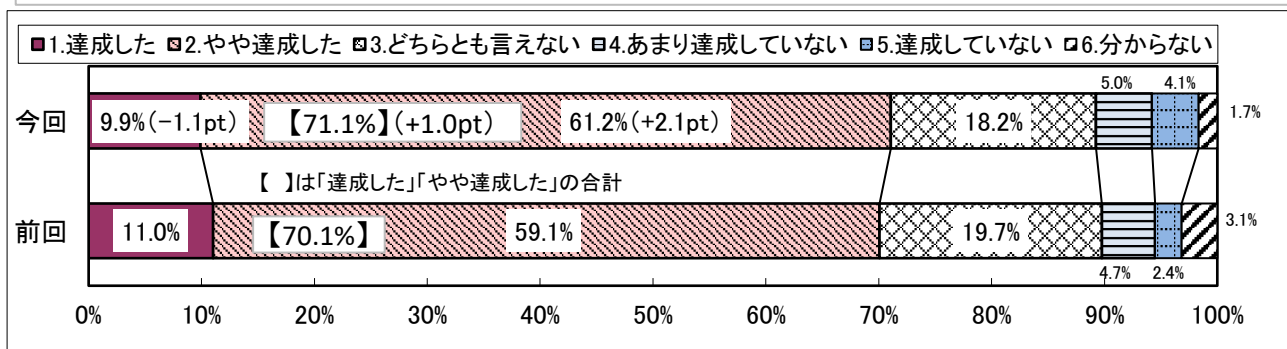
○地域別では、「達成した」「やや達成した」の合計は、沿岸北部で63.4%と前回(69.7%)を下回り、沿岸南部では75.1%と前回(70.2%)を上回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は11.7全体%と、前回(0.5%)から大きく広がった。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が79.2%と、前回(65.8%)を13.4ポイント上回った。また、「あまり進んでいない」「進んでいない」の合計は3.3%と、前回(6.4%)を下回った。

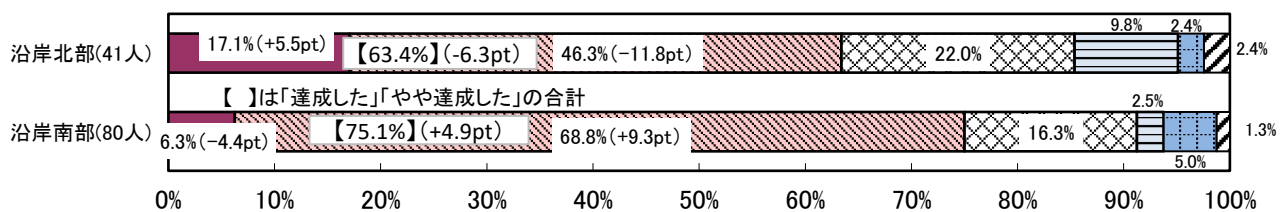
防潮堤や復興道路などハード面の整備が進んだことを評価する声がある一方で、発災から10年の経過に伴う防災意識の低下への懸念や、避難訓練などのソフト対策や教訓の伝承の重要性を指摘する声が多かった。

① 災害に強い安全なまちづくりの達成度(震災以降における全体の達成状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、災害に強い安全なまちづくりは、被災前と比べてどの程度達成したと感じますか？

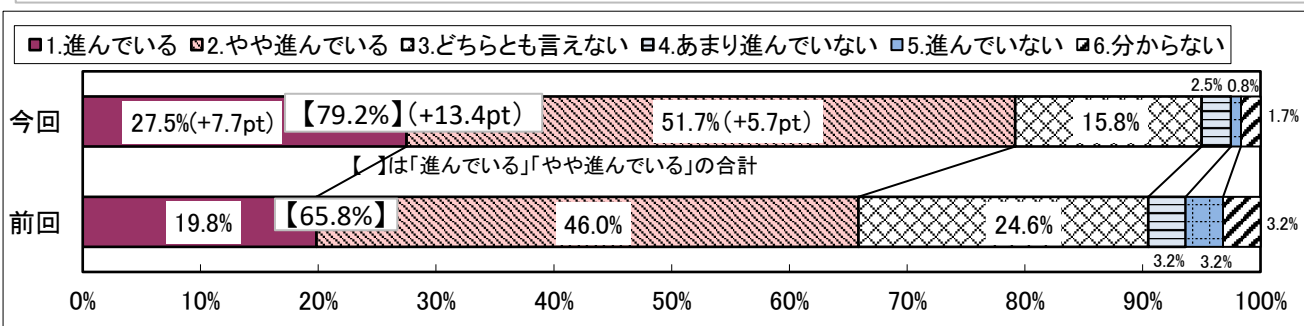


地域別

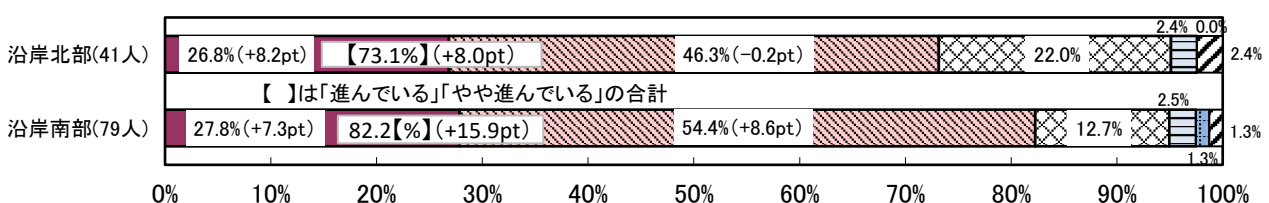


② 直近6ヶ月間(おおむね1月から7月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)災害に強い安全なまちづくりの進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 達成度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.達成した」 又は 「1.進んでいる」 の理由</p>	<p>◆地元の防災施設は既に完成し、三陸北道路、宮古盛岡縦貫道も年度内にはほぼ完成し、防災・避難方策は充実した。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)</p> <p>◆インフラ整備は充実し、それをまのあたりにすることで人々は安心感を抱いているが、残念なことに、その安心感のためか、避難訓練などのソフト事業への参加が多くはない。市民レベルでの防災対策は、やっている人たちがやっている感があり、市民総出で取り組むための意識改革が必要だと思う。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p>
<p>「2.やや達成した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<p>◆住環境整備・道路網整備が、かなり進んだことは、嬉しい。生命の安心安全のための防波堤工事は、私の住んでいる地区の防波堤関連工事は完成に近いが、まだ先の地域もあるようだ。いよいよ、東日本大震災、満10年目の節目を迎える。10年を越えない復旧復興工事の完成を切望するものである。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆三陸道が完成し、災害の時など孤立する事なく、何処へでも繋がる安心道だと思います。又、時間も短縮され、仕事の上でも多くの業者が利用しています。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆防潮堤がどんどん出来上がってきており、復興道路も着実に完成している。 ・災害に対する「自己防衛意識」が自分を含め、住民の大半にないと思われる。誰かの助けに頼ろうという面が大きいと思う。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆ハード的にはスピード感はないが、確実に進んでいると思う。それに伴い個々の意識が薄れてきているのも事実で、今後はハード面だけでなく、ソフト面でも安全・安心と言えるような取り組みに力を入れるべきである。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆宮古盛岡横断道路の区界トンネルも開通し、内陸との行き来がしやすくなったのも、安全なまちづくりの一步でもあるのだと思う。しかし、人々の防災意識は自分も含め薄れてきている気がする。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆防潮堤の整備は進んでいる。今後、ハザードマップや、万が一の避難場所がどこなのかを各自理解し、命を守る行動がとれるようにしていくことが必要と思う。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)</p> <p>◆大規模な防潮堤もその形が目に見えて確認できるようになり、災害に備えたまちづくりは着実に進んでいると感じる。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆国・県・市の事業として、防潮堤や道路等、しっかり整備され“安心”を目指し進んでいると思う。10年を迎えるにあたり…市民一人ひとり(特にも小中学生)に防災教育を行いたいものである。震災後に生まれた子どもたち、当時幼かった子どもたちが大人になった時、“誰かに手を差し伸べる人”、“被害を最小限にできる人”になってほしい。そして“安心”を地域で共有してほしい。“安全”は数値ではかれるが、“安心”は人の心が決めるものだから。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p> <p>◆災害の減災の計画を立てているのは行政であるが、住民1人1人が災害時の避難を怠ってはいけないと思う。いわゆる災害の頻度が多いと人間は慣れるという性質があり、これらの経験を踏まえ、行政は、災害に備える事が重要であると思うので、広報活動が重要と思う。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<p>◆防潮堤や、道路の整備は大分進んだが、震災の風化により、災害への意識がうすらいているように感じる。又、震災を知らない(覚えていない)世代が高校生になっている中で、防災、震災の教訓を伝承していくことが、今後、ますます必要になってくると考える。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆避難所の明示、村内における避難訓練や放送による注意喚起等、一定水準の方策は行われている。反面、高齢者や移転間もない住民へのケアが不明瞭である。(40歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p> <p>◆防潮堤の整備や、三陸道路が着々と進んでいると感じるが、避難方策の充実はどのようになっているのか、よく、わからない。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p>
<p>「4.あまり達成していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<p>◆津波対策の防潮堤は完成した。しかし、台風に対する対策は遅れており、東日本大震災、平成28年台風10号、令和元年台風19号と3回も被害に遭った世帯もある。避難のための訓練やハザードマップの周知など、ソフト面での対策と台風による内水氾濫のハード面の対策が必要である。11月に防災訓練を実施し、防災士の資格を持つ人も増えており、防災のまちづくりは進んでいる。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)</p>

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率におおむね準じています。

注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など
教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など

産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

いわて復興ウォッチャー・動向判断指数(DI)の推移

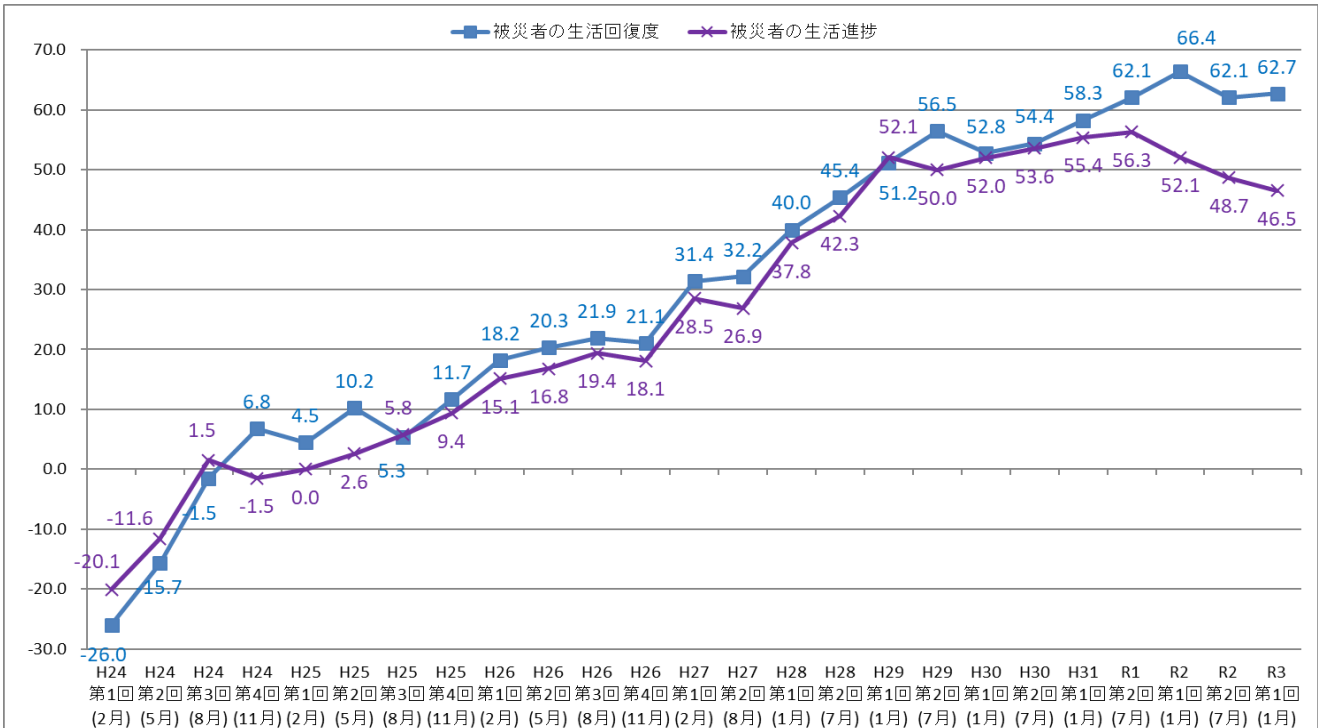
<動向判断指数(DI)>

掲載する折れ線グラフは、各回の動向判断指数(DI)について時系列にその推移を表わしたものである。動向判断指数(DI)は、「回復した」の回答数がA、「やや回復した」の回答数がB、以下「どちらともいえない」がC、「あまり回復していない」がD、「回復していない」がEのとき、次の式で算出する。

$$\text{動向判断指数(DI)} = \{ (A \times 2 + B) - (D + E \times 2) \} \div 2 \div (A + B + C + D + E) \times 100$$

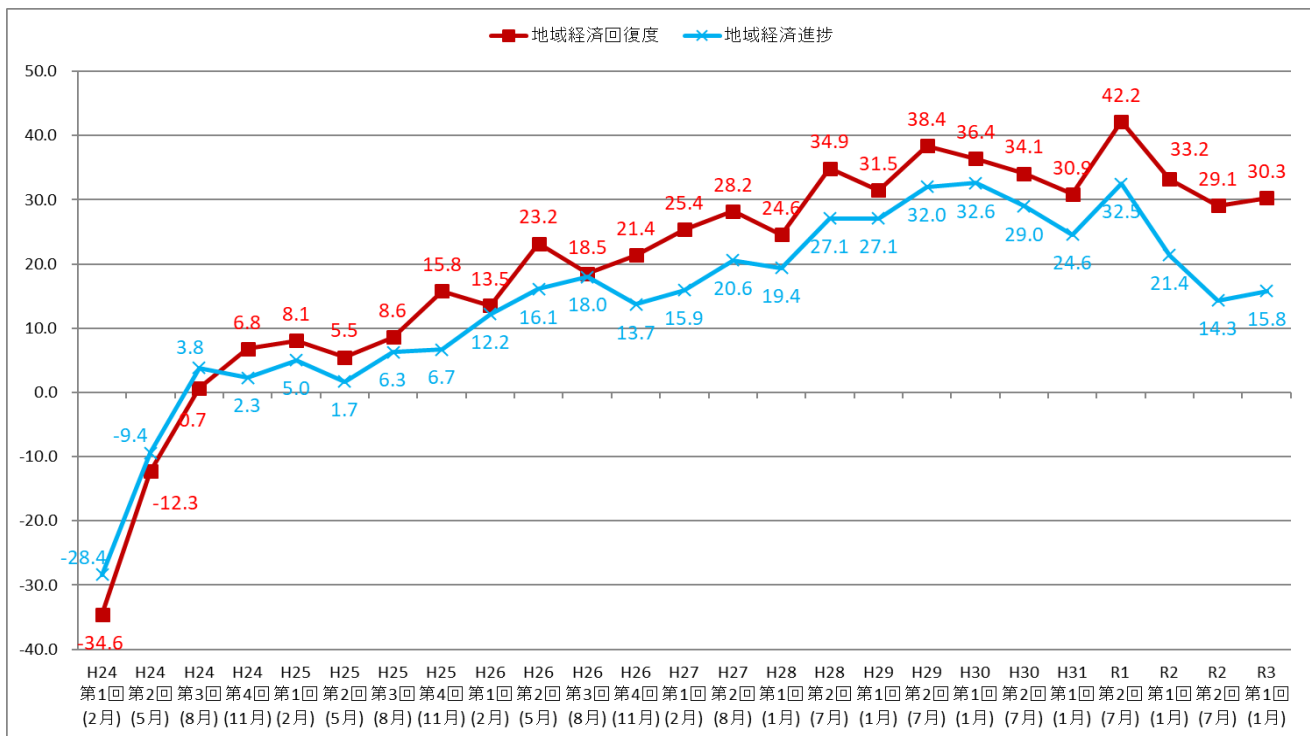
(注) 上記「回復した」は、設問によって「達成した」「進んでいる」等となる(他の選択肢についても同様)。

【被災者の生活】回復度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



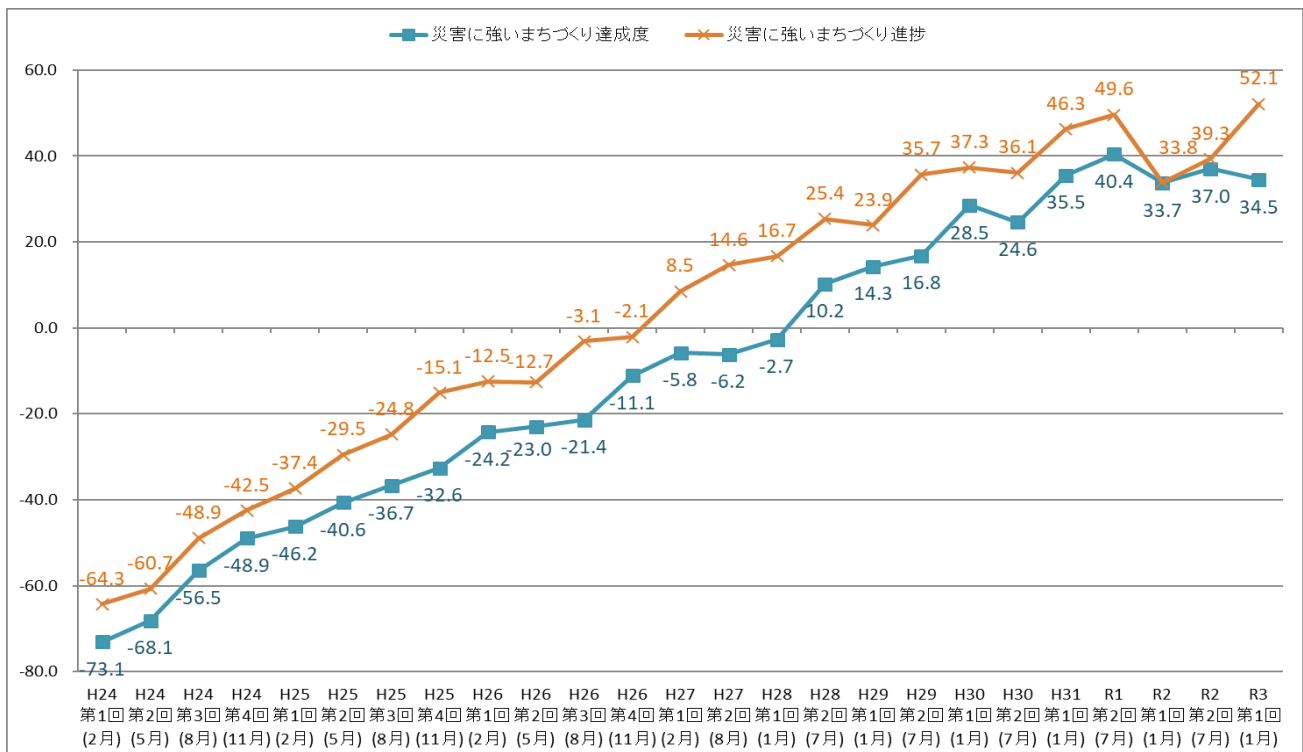
※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、おおむねR2年7月～R3年1月)を指す。

【地域経済】回復度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、おおむねR2年7月～R3年1月)を指す。

【災害に強い安全なまちづくり】達成度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、おおむねR2年7月～R3年1月)を指す。

令和3年【第1回】
「いわて復興ウォッチャー調査」
結果報告

発行

令和3年2月18日

岩手県

復興局 復興推進課

〒020-8570

岩手県盛岡市内丸10-1

電話 019-629-6945

ホームページ：いわて復興ウォッチャー調査について

<https://www.pref.iwate.jp/shinsaifukkou/fukkounougoki/chousa/watcher/1002363.html>